



● 札幌ブリッジクラブ普及活動奮闘中

札幌市主催のシニア大学聴講生の中に千葉市でミニブリッジを習っている途中で札幌に引っ越してきた方からミニブリッジを習いたいと、電話をいただいたのが今年の2月初めでした。

それをきっかけに、習いたいと言われた聴講生5人の方々と一緒に札幌市中央老人福祉センターへ行き、センターの所長にブリッジの講座開設を申し出たところ、所長さんはブリッジのことはまったく知らない方でした。北海道新聞社、ジャスコ、全国の主要競技会など連盟から頂いた資料を持って、市民の受講生を代表するような5人を連れて口説き落として、札幌市中央区に在住する約22万人の全所帯に配布される札幌市民広報3月号に募集記事を載せていただきました。60歳以上健康で一人で通える市内在住の方との限定付きの募集でしたが16人しか入れない教室に、当日体験教室に32名の参加者があり入りきれず、急遽隣の日本舞踊の部屋があいていましたのでテーブルを運び込んで対応しました。この中に函館の近くから特急で3時間半をかけて毎週13,000円の交通費を出して通っている方がいます。その方のために講座終了後汽車の時間までセンターロビーで特別指導をしています。6か月の講習を終わっても、月に2回ぐらい仲間とブリッジをしに札幌まで通っています。

(2010年2月、北海道、I.M.様)

● 入門コース講習会を引き受けて

事の始まりは2009年11月、ある公民館でブリッジを楽しんでいた折、今公民館の館長をやっている昔からの友人に出会いました。同氏より「国分寺には5つの公民館があるが元町公民館だけが今までブリッジの講座をやっていないので4月より入門講座を設けたい、募集及び部屋の確保は公民館側でやるので指導方願いたい」旨のお話を戴きました。私も年と共に地域で趣味を楽しみたいと言う気も徐々に強くなっており、この講座を通してブリッジが地域へ浸透していくようになればこれも地域貢献の1つと考えお引き受けする事にしました。開催2ヶ月前に市の公報に入門コース開催の旨掲載された処、すぐ定員40名を超える応募がありこちらも責任の重大さを感じると共に皆様にこれをキッカケに将来に繋がる趣味として楽しんで戴くために、頑張ろうとの思いに至った次第です。

現在2回目が終わりましたが多くの方が2時間では物足りないようで時間が過ぎてもカードを握り締めておられる姿も散見されました。「こんな機会を作ってください感謝しています」と館長さんにも御礼があった由。私にも「この日だけは万難を排して来るつもりです」との声も戴きやり甲斐を感じている次第です。

(2010年5月、東京都、H.T.様)

● 東京女子大学同窓会「園遊会」体験教室のご報告（4月29日）

2010年4月29日（昭和の日）に杉並区の東京女子大学園遊会（年1回の同窓会行事）に「コントラクトブリッジ体験コーナー」として参加しました。今回で5回目の参加です。

同窓会の行事ということもあり終始なごやかな交流の場となり、36名の参加者がありました。

普段私たちは、同窓会の自主グループとして月2回の練習会を細々に行っていますが、昨年はこの園遊会がきっかけとなり、埼玉の方々と一緒に計24名でキャンパス内の同窓会館で練習会を1日楽しみました。

懐かしいキャンパスでのブリッジは、普段とはまた違った趣？があるように思います。

(2010年5月、長崎県、M.S.様)

● 放課後スクール体験教室 その1

先日、地元小学校の放課後スクールで、地域ボランティア講師として体験会をしました。担当の方に「とにかく1回やってみましょう」と言っていただき、開催の運びとなりました。

当日は途中早退者を除く1～3年生12名が最後までプレイしました。

NTホイスト1回ののち、NTダミーホイストで正味75分遊び「この続きはいつ？」という声が出て、夏休みにまた開催します。子どもたちは希望しての参加ですし、自分たちの居場所でいつものスタッフが見守っているため、ストレスがない様子でのびのびとしていました。その分、こちらはエネルギーを吸い取られたような気がしました！

今回の経験から、学校での希望者対象教室（部活動なども）が「ジュニア層への普及」の基本形の一つではと感じました。今後ここで定期開催となるかどうかまだわかりませんが、「待っている子どもがいる、楽しい」と思えたら続けられそうです。「ちょっと子どもたちと遊んでみます」というノリで、他の地域でも試してもらえたらいいなと思います。

今回のような普及活動はジュニアたちのためにはなっても、J C B Lの会友数増加にはなかなか結び付かないと思います。多方面への口コミ効果が出れば、それが最大の成果といえるのではないのでしょうか。また、放課後スクール活動へのJ C B Lの支援は、それが連綿と続くであろうこと（講師の“生涯ボランティア”という意味）を想定した上で、入門教室対象助成とは別に「多くはないが長く」あれば、普及ゴコロを發揮する助けになるのではと考えます。

(2010年6月、東京都、M.S.様)

● 放課後スクール体験教室 その2

6月に引き続き夏休みの午後に、今度はブリッジ・インストラクターの方にアシスタントをお願いして開催しました。参加したのは約30名で、2回目の子が数名いました。

講師がテーブルについて一緒に遊ぶと、年齢に関わらず構ってもらって嬉しいし、よく分かるので理解が進みます。児童たちは“遊び相手になってくれる新しく来た先生”にまわりついて、見ていてほほえましい様子でした。ですが、子どもだけの複数のテーブルに対して説明をして遊ぶのは、傍で見守っているのですがなかなかことが運びませんでした。結局今回もNTダミーホイストで終わってしまい、それが心残りです。

先日、近所で「あ、カードゲームの先生だ！」と言われビックリしました。

“ブリッジ”ではなかったのは残念ですが、40名の小学生に「カードゲームを教わった」と記憶してもらえ

ば嬉しいです（とても小さな一歩！）。ここで次の機会があるかまだ定かではないのですが、将来どこかでブリッジに戻って来てくれたらいいですね。

（2010年8月、東京都、M.S.様）

● アブダビのブリッジ部活動報告



アラブ首長国連邦の首都アブダビにありますブリッジ部の活動報告をさせていただきます。

今まで、日本人会の部活動として、ブリッジ部があり、年1回のブリッジ大会には、邦人企業で働く男性陣も参加されておりました。が、ここ数年、大会が開かれませんでしたので（理由は解りませんが）、日本人会から廃部の打診がありました。現在11人の婦人たちが部員として週1回ブリッジをしておりましたが、話し合いを重ね、婦人部活動として、存続することが可能になりました。

現在の部員は、ブリッジ経験が浅く、3か月から3年ほどの若い人ばかりですが、今年4月に大会を開く話が持ち上がり、6月7日ブリッジ大会開催の運びとなりました。

2ヶ月間練習日を週2回にして、4時間で8~10ボードほどしていたものを、1ボード10分を目標に、あんちょこを見ない様に、練習を重ねました。

大会運営の経験者が居なく、私も初めてでしたので、アブダビにありますWIAD（Women in Abu Dhabi）のブリッジサークルの方にボードの動き、人間の動きを教えて頂きました。

大会には9人が参加、個人戦としました。シットアウトが出るため、2ボードずつ、9ラウンド、計18ボードという、大変に大きな目標を掲げる事になりました。皆にとっては、気が遠くなるようなボード数です。大会スタート時は、皆、超緊張の状態でしたが、何とか3時間半、18ボードプレイ完了する事が出来ました。部員全員の達成感がいかほどであったかお分かりになりますか。万歳して喜びあいました。

大会が終わった後、また大会をやりたいと言う声が出ましたので、部員がブリッジを通して頑張ってきた事が報われ、ブリッジ熱が湧いた様で、私も心から嬉しく思いました。

結果の出し方は、とりあえず、WIADのパーティーブリッジ方式の採点にしました。その後、WIADのデュプリケート方式の採点方式を教えて頂きましたが、結果が随分と違って出てくるのに驚きました。

学校の夏休みが始まり、日本に一時帰国される方が多く、また帰国される方も出たりして、ブリッジ部の人数はいつも不特定ですが、アブダビに居残り組は、ブリッジするのに燃えております。

（2010年7月、アブダビ、K.M.様）

● ながさき国際協力・交流フェスティバルにて（10月31日）

2010年10月31日（日）「ながさき国際協力、交流フェスティバル」の体験コーナーにチェスと隣り合わせのかたちで参加し、長崎のブリッジメンバー数名が精力的に手伝ってくれました。今年は体験教室会場の5階がスタンプラリーの終点？になっていたこともあり、大勢の受講者でした。4テーブル用意し、受講者名簿も連盟からの記念品も余裕をもって60名分用意していましたが、それ以上の受講者で、最後には記念品はなくなるし、受講者名簿も書く欄がなくなり、最終的な受講者数は把握できませんでした。70名~75名だったと思います。ご家族連れ、中高生、アメリカ人、ベトナム人、インドネシア人などさまざまでした。日本語が話せない受講者には英語が得意なメンバーが上手に対応してくれました。

（2010年11月、長崎県、M.S.様）

● ゆめ！さくら博！のご報告（10月30日・31日、栃木県さくら市）

「ゆめ！さくら博」30日は一日中雨でした。しかし、私達のブリッジブースはオープンと同時にご家族5人の体験者があり、和やかで、且つ微笑ましいご家族の交流が見られ、これはブリッジによって得られたものであり幸先良いスタートを切らせて貰いました。

2日間の体験者数は52組77人で、例年の40名前後から見ますとほぼ倍増の体験者となりました。

今年は会場が公民館と体育館に分散したことで、私達のブース（公民館）に体育館から人を呼び込むためにチラシ配りをしなければと考慮した程でしたが杞憂となりました。

又大勢の体験者で、一時は子供達が1つの椅子に2人掛けする程となるなどで、用意したカードが足りなくなるのではと心配する状況でした。

ご家族の方の体験者では体験記念にとカードを差し上げ、お子さんに“お家に帰ってやってね”と言いますと、親御さんの驚きの顔（これまで用意してくれてという感じで感謝されました）にお子さんの嬉しそうな顔が印象的でした。土曜日に来られた一組の母子ですが、翌日は父親まで連れてこられ、お父さんがしっかり覚えて帰られた程でした。これら多くの体験者の方々のいくつもの感動シーンに接し私達スタッフも元気を貰いました。

これらの成果が得られましたのはスタッフの方が親身に初めての体験者に接したことも有りますが、なんと言っても連盟の支援により華やかに飾り付けしたブースを通り掛かりの人の興味をそそったことは確かですし、また飾り付けた風船をお子さんに差し上げたり、体験記念品まで用意したことなども欠かせません。

今年の特徴はお子さん連れのご家族での体験者が増え私達のアピールポイント「お子様から年配の方・年齢性別を問わず楽しめる」に沿ったものとなりつつあること、もう1つ、これは一昨年頃から見られ始めたことですが、リピーターが出始めており、ブリッジの知名度の向上も感じます。

これらで得られた体験者が練習会に参加されるかについては道遠くの感じですが、今後も地道に活動を続けたいです。

（2010年11月、栃木県、Y.H.様）

※JCBLより：普及事業部へいただいたメールの一部をご了承を得て編集・転載しました。

● 神奈川ロータリークラブ講演のご報告（11月1日）

2010年11月1日、神奈川ロータリークラブでの卓話、無事終わりました。60名近い会員にコントラクトブリッジという名前を聞いたことがあるかとアンケートを取ったら、全員が全く知らないと言われ驚きました。講演後DVDを見てもらい2時間ほど有志だけ残り（10名）体験をしてもらいました。皆さん楽しんでくださり、あっという間に時間が経った、まだ遊びたい、と言ってくださいました。カードに慣れた感じの人がいらしたのでお聞きしたら、大学時代にしていたという方と、友人がしていたから知っているという方、2名いらっしゃいました。またいつかしたいと言ってお開きになりました。いつかを楽しみにしたいと思っています。

（2010年11月、神奈川県、A.D.様）